

令和2年度学校自己評価システムシート (埼玉県立幸手桜高等学校)

E36

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	--

重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに、学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3 計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望の実現を図る。 4 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				実 施 日 令 和 3 年 2 月 9 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	〔現状〕 朝学習の取組が年次進行で完成年度を迎えた。落ち着いた学習環境を整えることで、授業を熱心に取組む生徒は増え、成績優良者や各種上級検定試験の取得者は増加傾向にある。 〔課題〕 ・文理系と商業系の特色を出し、系列主体での進路実現につなげる。 ・欠点保有者や学習支援を要する生徒への組織的な対応を各年次が中心となって行うこと。 ・職員朝会時間の編成などを考慮し、朝学習の指導体制を図ること。 現状を踏まえたうえで上記3点を課題とする。	○基礎学力の定着と授業改善の推進、学習機会を充実させる。 ○積極的な授業公開や外部リソースを活用し、教員の授業力と生徒の基礎学力を向上させる。	①各年次が巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、落ち着いた学習環境を提供する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業を有効活用し、学び合いの精神の下、さらなる学力向上を目指す。 ③教務部が主体となり、アクティブラーニングの授業を定着させる。 ④タブレット端末や、プロジェクトを活用し、先進的に授業改善を行う。 ⑤「ノー朝会デー」等を企画し、各年次が主体となり朝学習を定着化する。 ⑥長期休業中を中心にして、各教科による進学補講、年次商業科による資格取得のための補習を充実させる。 ⑦1年次が中心となり、教学を中心とした学習サポーターからの支援を下に、基礎学力を定着させる。	①②③④⑤⑥⑦学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑤⑥⑦成績優良者は増加したか。 ②⑤⑦成績不振者は減少したか。 ④授業改善の取組が推進されたか。 ⑥進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑦学習サポーターの活用時期は生徒のニーズ(中間・期末考査前、長期休業中等)に合ってタイムリーであったか。	①②③④⑤⑥⑦休学期間中の新たな取り組みとして、リモート学習をはじめとする家庭学習が行われた。学習指導への満足度は高い数値であったものの、成績優良者の伸び悩み、成績不振者の減少には至らなかった。 進学補講や資格取得補習は多くの教員が開講した。 学習サポーターの活用については、感染症の状況を見定めながら、週1回のペースで指導にあたってもらった。	B	朝学習の定着は実感できたが、一部生徒の取組の甘さが確認されている。生徒の学習意識の向上を図る仕掛けが必要である。 成績優良者が年度当社に比べ減少している。また、成績不振者は減少傾向に至っていない。家庭との連携を強め、学習指導にあたりたい。 進学補講や資格取得補習など、多くの教員の献身的な取り組みで実施された。 休業期間中の指導ツールとして、タブレット端末の活用が推進された。回数も当初の40台から56台に増加し、学習環境の拡充が図られた。 学習サポーターの活用については、学生の確保と活用時期について検討が必要と考える。	・「朝学習」指導の一定の成果は確認されているが、一方で、遅刻者や、朝学習への取組が甘い生徒が一部に見受けられる。成績不振者との相関も踏まえ、指導の充実を図ってもらいたい。 ・学習意欲を高める取り組みとして、成績優良者を集めて、大学とのゼミやサークルとの交流は実施できないか。 ・リモート学習やタブレットを活用した学習について、成果をPRすべきではないか。 ・コロナ対策をとりつつ、リモート学習や授業以外の補習が開講され、資格取得指導が行われていた。引き続き、指導をお願いしたい。 ・資格取得を希望する中学生のニーズに引き続き応えてほしい。	
2	〔現状〕 近隣には本校卒業生が数多く居住し、応援する地域住民は多い。商工会と学校の連携が活発で、地域貢献に積極的に取り組んできた。地元商店とのコラボレーションによる商品開発した「さくらあんロール」が完成し、幸手の特産品として販売に至っている。 〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・広報活動を広域的に進め、生徒募集を学校全体で取り組むこと。商工会、大学との新たな連携を実現すること。 現状を踏まえたうえで上記2点を課題とする。	○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実。 ○本校を第1志望としている生徒への丁寧な対応。	①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に、中学校訪問や学校説明会等において、系列や進路状況等を強調して説明を行うなどして、具体的な情報発信を行う。 ③情報管理部を中心に各分掌が連携することにより、HPの内容を刷新し、更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。	①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②1月、2月の説明会に新規の参加者を集めることができたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織(年次・分掌・部活動等)で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動(文化祭・市民祭りの参加)ができたか。 ④⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。	①②③④⑤前年度までの説明会を見直し、「3密」を避ける形で実施することができた。参加者の受け入れを分散し、オンライン配信を行うことで、参加者に「安心」と実感してもらうことができた。 広報部による塾訪問、管理職による中学校訪問により、説明会の参加者がすべての回で増加に転じたことには大きな成果であった。 ほとんどのイベントや学校行事などが中止となり、地域連携活動ができなかったことは大変残念であるが、幸手中学校の授業公開には多くの教員が参加した。	B	説明会への参加者が毎回前年度を上回り、アンケート結果も9割以上から高評価を戴いた。 管理職・広報部によるローラー作戦で、中学校・塾訪問を実施したことが参加者増加につながったと思われる。継続した取り組みにしていく必要がある。 ・通学路の美化活動や登下校時のあいさつをする生徒が増えたことと実感している。また、校長をはじめとする職員による登下校指導により安全が確保されている。	・生徒募集の観点から、中学生と在校生との交流の機会を設け、地元からの入学者を増やす工夫が必要ではないか。 ・ホームページをリニューアルし、「360度校内パノラマツアー」を公開した。説明会に参加できない受検生や保護者に、学校の設備や様子を確認できる。今後の生徒募集に活用してほしい。 ・通学路の美化活動や登下校時のあいさつをする生徒が増えたことと実感している。また、校長をはじめとする職員による登下校指導により安全が確保されている。	
3	〔現状〕 大学入試改革により、学びのポートフォリオが注目されている。本校では、インターンシップの成果が高く進路決定率につながっている。就職のみならず、進学実績も向上している。 〔課題〕 ・キャリアパスポート(手帳を含む)による明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させること。 ・e-ポートフォリオ等の活用に向けた教員の意識向上と研修を進めること。 現状を踏まえたうえで上記2点を課題とする。	○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。 ○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。 ○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。	①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリング的役割を担う。	①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルをあわせ進路指導を行い、自己実現を果たしたか。	①②③④⑤年間の指導計画の大幅な見直しを産社総探委員会と進路指導部が連携し、キャリア教育の推進に当たることができた。 特に、就職指導は例年と大幅に異なる状況での対応であったが、分掌と年次の緊密な連携、面接指導をはじめとする生徒への丁寧な指導により、大きな成果を上げることができた。	B	進路指導部と3年次の緊密な連携により、きめ細かな進路指導が展開された。年度途中で大幅な日程変更があったものの、組織的対応により生徒への対応が進められた。 こうした取り組みを単年度で終わらせることなく、継続した取り組みとなるよう、校内における進路指導や手法の継承が求められる。	・インターンシップをぜひ来年度は実施してもらいたい。他校にはないキャリア教育であり、生徒の進路保障の観点から、実現に向けて準備を進めてもらいたい。 ・大学との交流事業をはじめとする高大接続事業は感染状況を見定めて、実施してはどうか。 ・就職指導のスケジュールが大幅に変更される中で、柔軟に対応し、生徒の進路実現を図っていた。	
4	〔現状〕 朝の校門指導や交通安全指導を行った成果で、生徒たちは落ち着いた学習環境の下、高校生活を送っている。 〔課題〕 ・基本的な生活習慣の確立と、安全・安心な学校生活を実現するため、更なる学校環境の充実を図ること。 ・明るく元気なあいさつを実行に移すこと。 ・部活動活性化策を推進し、本校で学ぶ強い意欲を持つ生徒の確保に努める。 現状を踏まえたうえで上記3点を課題とする。	○規範意識の醸成に向けた取組と、「時を守り、場を清め、礼を正す」の実践を図り、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。	①基本的な生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。 ②生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ③教務部を中心に、皆勤を奨励する取組を実施する。 ④教育相談員を活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ⑤成果や結果については報道機関への積極的な情報提供を行う。	①生徒指導の本質が理解され、生徒指導件数が減少するに至ったか。 ②学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣に関する内容の達成状況が向上したか。 ③表彰を行うと共に、努力を誉めることで、皆勤者数を増やすことができたか。 ④転退学者数は減少に至ったか。 ⑤3年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。	①②③④⑤生徒指導部と年次の連携により問題行動の発生は昨年比で減少傾向となった。しかし、高校生活の決まりごとが順守できない、学習規律を確保できない旨のアンケート結果が示された。保護者・生徒からの真摯な訴えに適切に対応しなければならない。 部活動やコンテストで大きな成果を上げることができた。 新入部員勧誘イベントを小規模ながら開催できた。部活動への加入を促進するため、生徒への働きかけを続けていく。	B	高校生活や集団生活の基本的な約束事を十分理解せず、再三注意を受ける生徒がいる。家庭との連携が不調で改善が進まないケースも発生している。本校の求める生徒像を確保できない旨のアンケート結果が示された。保護者・生徒から粘り強く指導を重ねる必要がある。 ワープロ部や英語スピーチコンテスト、女子バレーボール部の活躍は学校にとって明るい話題であった。メディアへの情報発信を通じて、PRの充実を進める必要がある。	・教員側のアウトプット(情報や知識の発信など)が多くなるほど、生徒のインプットも増えていきます。生徒の成長を促すために、引き続き指導をお願いしたい。 ・休業期間による学校生活開始の遅れが、生活面の乱れにつながったのではないかと、引き続き指導をお願いしたい。 ・特に、高校における約束事や規律順守の指導の遅れが、2学期の問題行動に関連していると思われる。入学前の説明会などで、指導方針やねらいを保護者に説明し、協力を求める必要を感じる。安心・安全の学校の基礎となる生活指導について全職員で臨んでほしい。 英語スピーチコンテスト3位入賞、ワープロ部全国大会3位、書道部・美術部の入賞、女子バレーボール部の県大会出場など厳しい環境の中で、生徒の活躍があった。	